

## 小麦の推奨品種決定調査の実施

京都府の推奨品種の小麦「せときらら」について、当センターでは栽培特性や年次変動を明らかにするために、11月中旬に播種し、茎数・草丈などの生育調査を行っています。

また、「せときらら」よりも収量・品質・製パン性などに優れた品種を求め、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構から複数の有望系統・品種を入手しました。将来の京都府内における普及を見込み、これらの生育特性や地域適応性を明らかにするため、生育調査を行っています。

発芽や初期生育は順調で、2月上中旬からは幼穂が確認されました。得られた生育データは、今後の推奨品種化に向けて活用します。



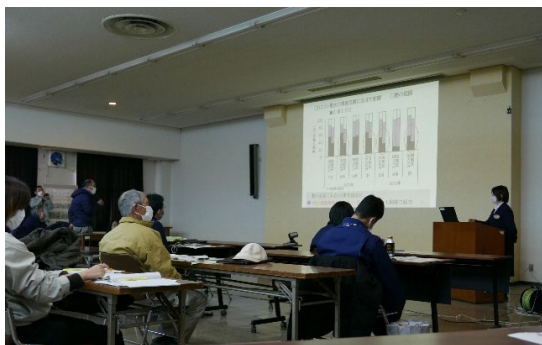
草丈などの生育調査の様子(2月16日時点)

## 農林センター試験研究成績報告会を開催しました

当センターでは、研究成果を府内の農業関係者に活用していただくため、試験研究成績報告会を毎年開催しています。今年度は、3年ぶりに会場(亀岡)での対面方式と丹後農業研究所をパブリックビューイング会場、さらにオンライン配信を併用する開催とし、口頭発表6課題とポスター発表13課題を報告しました。

当日の参加は、亀岡会場25名、丹後会場3名、オンライン40接続で、それぞれの報告に対し参加者との間で活発な意見交換が行われ、オンラインからも多くの質問が寄せられました。

終了後のアンケートでは、口頭発表に対しては「分かりやすかった」、「興味を持った」という評価が多く、ポスター発表では万願寺トウガラシの省力化や酒造好適米品種などへ高い関心が寄せられました。



口頭発表の様子



ポスター発表の様子

## 造園事業組合の病害虫講習会で講演

2月24日(金)に、亀岡市造園事業協働組合の青年部が内部研修として企画した病害虫講習会に当センターの研究員が講師として招かれ、「地球温暖化と病害虫の変化」のタイトルでおよそ2時間の講義を行いました。

講師を務めた研究員は、30年以上も樹木病害虫と丹波くり栽培の研究に携わってきた実績から、樹木伝染病の分野でナラ枯れの原因を究明した経緯の苦労話や、農業開発とその使用実態にまつわる社会問題など辛辣な内容の話をエピソード満載に研究の面白さとして伝えました。

20名の組合会員がこの講義を受け、聴講の後の質疑応答も活発なものとなり、閉会時には会場内であちらこちらから、知らなかったことがよくわかった、もっと色々勉強したいといったアンコールの声が上がっていました。

当センターでは、研究成果をわかりやすく府民に伝えていく情報発信の取組を大切にしていきたいと考えています。



講義の様子(於：亀岡総合庁舎 3F 会議室、19時開演)

農林センター(森林技術センター)

## 試験研究成績報告会・活動報告会を合同開催

2月22日に当研究所において、丹後農業改良普及センターと合同で試験研究成績・活動報告会を開催しました。今回の報告会は、「美味しい丹後産米の発展を目指して」をテーマとしました。当研究所からは、京都オリジナル米新品種“京式部”の安定生産のための栽培方法と酒造好適米「祝」の新品種“祝2号”の栽培技術を報告しました。

当日は天候に恵まれ、地元生産者をはじめ、関係JA及び府・市の職員など90名を超える参加者がありました。

当日のアンケートからは、「丁寧に説明されて分かりやすかった。」、「北部12歳での「祝」を使用した日本酒をよく見かける。今後の変化（酒蔵・消費）についても知りたい。」等の要望も寄せられ、当研究所に対する期待の高さが伺われました。

今後も現場に役立つ技術開発に取り組み、その成果を生産者や関係機関に情報発信していきます。



“京式部”の報告



満席の会場

## 宇治茶の価値向上へ スマート農業などの研究成果を報告

当所は、京都府茶生産協議会、京都てん茶省力生産体系実証コンソーシアムと共に2月10日に宇治茶会館(宇治市)にて研究報告会を開催しました。本会は、研究成果を速やかに生産者・茶商工業者に普及することで、宇治茶の価値・魅力を向上することを目的として開催し、オンライン参加者を含め約200名の茶関係者が出席しました。

当日は、研究成果として、2名の研究員から「茶業におけるスマート技術導入による省力化の実証結果」「簡易な保管容器で開封後も茶葉の品質を保つ保管方法の提案」について報告しました。また、同会場で「京都スマート茶業展示会 in 山城」が開催され、乗用型スマート防除機などの機械、資材の展示がありました。

会場では、実証実験に参加した生産者から新技術に取り組んだ体験談が紹介され、多くの出席者から、「理解しやすい報告で研究成果がよく分かった」との評価をいただくなど有意義な研究報告会となりました。



研究報告する研究員



京都スマート茶業展示会の様子

## 散布型除菌剤を動物園で実証散布

当センターは企業や大学とともに「散布型除菌剤」を開発し、福知山市動物園の協力を得てフィールドでの検証を行っています。

当センター内での試験では、散布後8週間までの除菌効果を確認したことから、同動物園で昨年12月23日に散布した資材を8週後の2月28日に回収しました。今後、京都産業大学において鳥インフルエンザウイルスを用いた不活化効果試験を実施する予定です。

また、除菌剤は追加散布を実施しており、検証を継続すると共に土壌pHの違いによる効果の持続性についても調査することとしています。



フェンス手前に除菌剤を散布し、野生動物を介した菌やウイルスの侵入防止を目指す



効果の持続性に影響を及ぼす散布土壌のpHを測定

## 養殖アカモクの収穫が最盛期を迎えました

2月1日より、養殖アカモクの収穫が宮津市養老地先で始まりました。今期もアカモクの生育および生残は順調で、収穫量は4年連続で10トンを上回る見込みです。収穫作業は、3月中旬頃まで継続予定です。

当センターでは2月中旬～下旬に、来年度のアカモク種苗生産に向けて、成熟したアカモク母藻から種(幼胚)を採取する作業を実施し、約400万個(約5万本の種苗が生産可能)の種を確保しました。種は、種苗生産を開始する5月頃まで当センターの冷蔵室で大切に保管します。

海藻類は二酸化酸素の吸収源となることから、アカモクの養殖は地球温暖化対策においても注目を集めています。アカモク養殖が食用としてのみならず、京都府内の温暖化対策の取り組みの一例ともなるよう、引き続き安定した種苗の供給と生産振興に取り組んでいきます。



ドローンによる養殖施設の空撮画像



アカモクの種(倍率20倍)